

あなたの夢が 広がる つながる 大きく育つ！

港北ふるさとサポート事業 (愛称“ふるサポ”)

報告書



2005~2009

目次

1	はじめに	1
2	ふるサポ年表	2
3	活動グループ一覧	4
4	歴代事業委員	5
5	5年間の成果	
	・ 参加団体アンケートまとめ	6
	・ グループインタビューでの発言から	10
	・ 慶應義塾大学との連携について	13
	・ 活動団体相関図	14
	・ 港北ふるさとサポート事業の成果（事業委員・アドバイザー）	15
	・ 活動報告・交流会 港北寄りあい処（H22.3.20）	19
6	今後に向けて	20

平成 17 年度に始まった港北ふるさとサポート事業は、当初の予定通り、5 年間でその事業を終了することとなりました。この 5 年間で、29 団体が参加し、延べ 52 の活動が行われてきました。

事業の目的は、港北区に「住んでいてよかったな」、「ずっと住み続けたい」と思うことができる“ふるさと”港北づくりのため、地域住民の方々と行政の信頼関係を築きつつ、地域課題の解決や地域の魅力づくりを行う活動、これらを新たに始めようとする活動などが、自立・継続して地域へ根付いていくことができるようサポートする、というものでした。

当時としては珍しかった提案型の公募助成事業として、幅広い活動ジャンルの団体にご参加いただき、他の団体の活動や、事業委員からの厳しいつつこみ、助言などを刺激として、それぞれの団体が、地力をつけ、成長していきました。また、公開提案会、中間報告会、活動報告・交流会、研修会など、もうたくさんというくらい集まり、顔を合わせる機会があったことから、これまで交流のなかった団体同士のネットワークが形成され、様々な面での連携が広がったことも、大きな成果でした。

港北ふるさとサポート事業は今年度で終了しますが、参加団体のみなさんが、今後も地域での活動に継続して取り組んでいただくことで、ふるサポの成果が受け継がれて行くことと期待しています。

横浜市港北区役所

● ふるサポ年表

16年度

H17.3.26 活動情報交換会「港北寄りあい処」慶應義塾大学日吉キャンパス来往舎、参加者 60 名、発表 NPO 法人びーのびーの、新吉田本町町内会 富士見会、小規模通所授産施設アートかれん、こどもの本のみせ ともだち、ゆうゆう倶楽部、綱島地区家庭防災員

17年度

H17.6.25 公開提案会「港北学び舎」来往舎 2 階大会議室
17 事業の提案
第 1 回港北学び舎大賞 復活！桃源郷「高田」プロジェクト エピソード1 高田中学校おやおやの会

H17.11.23 「中間報告会」港北区役所
16 団体参加

H18.3.31 報告・交流会「港北寄りあい処 第二幕」来往舎
16 団体参加
第 1 回ふるサポ大賞 鯛ヶ崎公園プレイパーク

18年度

H18.6.17 公開提案会「港北学び舎」来往舎
16 事業の提案 縁結びタイム

H18.10.17 まちづくり免許皆伝講座第 1 回「自分の活動グループの今後を考えてみよう！」港北区役所 参加者 10 名
第 2 回港北学び舎大賞 鯛ヶ崎公園プレイパーク、NPO 法人 Futures Running Club

H18.10.31 まちづくり免許皆伝講座第 2 回「戸塚ドリームハイツに行ってみよう！」参加者 9 名

H18.11.14 まちづくり免許皆伝講座第 3 回「地域での活動を考えてみよう！」講師 (株) タウンニュース社 山下友隆記者 港北区役所 参加者 15 名

H18.11.23 中間報告会 港北区役所 15 団体参加

H19.3.17 活動報告・交流会「港北寄りあい処 第三幕」来往舎 15 団体参加
ワークショップ「ふるサポ大賞はどれだ！」講師 (有) コミュニティリサーチ取締役社長 尾崎有紀子氏
第 2 回ふるサポ大賞 こどもの本のみせ ともだち

19年度

- H19.6.18 公開提案会「港北学び舎」来往舎 10 事業の提案
- H19.10.19 まちづくり免許皆伝講座第 1 回 「地域の拠点に行ってみよう！」びーのびーの、かれん、港北区役所 参加者 10 名
- H19.10.26 まちづくり免許皆伝講座第 2 回「活動団体の自立について考えよう！」
港北区役所
- H19.11.17 中間報告会 港北区役所 10 団体参加
- H20.3.15 活動報告・交流会「港北寄りあい処」来往舎 9 団体参加
ワークショップ「港北ふるさとサポート事業のキャッチフレーズを考えよう！」講師 (有)コミュニティリサーチ取締役社長 尾崎有紀子氏

20年度

- H20.6.28 公開提案会「港北学び舎」来往舎 8 事業の提案
- H20.11.15 中間活動報告会 港北区役所 7 団体参加、講演会 つづき交流ステーション 溝井正美氏 (地域情報ウェブサイトの運営)
- H20.11.30 スキルアップ講座「舞岡公園・小谷戸の里を見学しよう！」参加者 5 名
- H21.3.14 活動報告・交流会「港北寄りあい処」来往舎 8 団体参加
ワークショップ「—今だから言える…旗揚げアンケート—」

21年度

- H21.6.27 公開提案会「港北学び舎」来往舎 3 事業の提案
- H21.11.14 中間活動報告会 港北区役所 4 団体参加
- H22.3.20 活動報告・交流会「港北寄りあい処」来往舎 14 団体参加

● 活動グループ一覧

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
公園あそびの会 おるたん					○
港北ふるさとテレビ局					○
綱島バリケン島プロジェクト				○	○
ヒヨシエイジ協議会	○	○	○	○	○
こうほく・人と生きもの・支えあう会				○	
公園遊びボランティア風の子			○	○	
特定非営利活動法人 あいあい		○	○	○	
Happy Mother Music		○	○	○	
ボランティアグループ もみじの会		○	○	○	
ワークショップピリオド		○	○	○	
こどもの本のみせ ともだち	○	○	○		
鯛ヶ崎公園プレイパーク	○	○	○		
日吉台地下壕保存の会	○	○	○		
NPO法人 フューチャーズランニングクラブ	○	○	○		
大倉山通信舎		○			
すこやかサークル		○			
奔太之会		○			
ライフサポート菊名		○			
綱島東ギネス認定委員会	○	○			
横浜市建築事務所協会港北支部	○	○			
小規模通所授産施設 アートかれん	○				
生きがい見つけた会	○				
港北地名を調べる会	○				
港北ポータルサイト研究会	○				
新横浜リフレッシュ計画	○				
高田中学校おやおやの会	○				
日吉学生委員会	○				
NPO法人 横浜移動サービス協議会港北事業所 (NPO法人 暮らしいきいきサポートの会)	○				
NPO法人 よこはま環境フォーラム	○				

● 歴代事業委員

(敬称略)

役 職	所 属	氏 名	期間(年度)
会長	有限会社夢工房代表取締役	古居 みつ子	17-21
事業委員 副会長	株式会社計画技術研究所	佐谷 和江	18-21
事業委員	慶應義塾大学経済学部准教授	長田 進	20-21
事業委員	株式会社キャラウィット代表取締役	上岡 実弥子	17-21
事業委員	株式会社タウンニュース社横浜中央支社支社長	熊坂 淳	17-21
事業委員	横浜国立大学地域実践教育研究センター准教授	三輪 律江	21
事業委員	財団法人横浜市青少年育成協会交流センターセンター長	山田 亜紀子	19-20
副会長	慶應義塾大学工学部教授	熊倉 敬聡	17-19
事業委員	NPO法人神奈川子ども未来ファンド事務局事務局長	米田 佐知子	19
事業委員	NPO法人アニミ理事長	服部 一弘	17-18
事業委員	大塚・歳勝土遺跡公園都筑民家園管理運営委員会事務局長	岡本 みどり	17-18
事業委員	神大寺地区センター指導員	福士 玲子	17

※役職、所属は、在任当時のもの

● 参加団体アンケートまとめ

(回収数 16 件)

質問 1 港北ふるさとサポート事業を3年続けた団体は、続けた理由をご記入ください。また1～2年のみ活動した団体は、3年続けなかった理由（例；①当初目的が達成できた ②提案会や報告会などメニューが多くて参加し切れなかった）をご記入ください。

<3年継続>3年間続けた理由

【連携・出会い】

- ・ 他の団体とのつながりがとても有意義だったので、その関係を続けたかった
- ・ 地域とのつながりを長期的に持ち、新規の団体とも積極的に交流を持つ必要があった
- ・ 互いに支えあえる仲間ができた

【信頼・認知】

- ・ 対外的な信頼が得られ、地域に活動を受け入れてもらっている実感が大きかった
- ・ 活動を認めてもらえる嬉しさ

【広報】

- ・ 区 HP での活動紹介
- ・ 活動を広く周知するため、区域に発信できる広報が可能だった

【資金】

- ・ 資金助成

【期間】

- ・ 当初目的を達成するのに3年間かかった
- ・ 活動を広げるためには3年間は継続が必要と考えた
- ・ 取組を改善し発展させるための基礎作りには、ゆうに3年は要した

【その他】

- ・ 2002年 WC 決勝戦を開催した町から、2006年 WC 決勝戦開催地ベルリンの町へ親書、記念品を贈ること
- ・ ふるサポの存在は、中身の入れ替わりの激しい学生にとって大切な場所だった
- ・ 後援名義による施設優先利用
- ・ 結果的には続けてよかった
- ・ 新しい取組を開始するのにタイムリーな時期だった

＜非継続＞3年間続けなかった理由

- ・ 3年目はメンバーの仕事が多忙で参加できなかった
- ・ 福祉交通対策はNPO単独で貢献できるものではないことを実感し、介護保険法、障害者自立支援法による福祉有償運送の方向に転換することを決め、NPO暮らしサポートの会を設立し活動中
- ・ 申請・報告は仕方ないが、報告会のため資料作り等、多くの時間が必要で対応しきれない
- ・ 施設として日中活動を続けている中で多くのメニューに参加していくことは、とても難しかった
- ・ 提出書類は負担だった

質問2 港北ふるさとサポート事業に参加したことで、あなたの活動団体にとって、効果があったと思われることについて、上位3つまでお選びください。

選 択 項 目	回答数	割 合
他の団体との出会い・連携	13	86.7%
区の事業に参加していることによる対外的な信頼性	9	60.0%
広報よこはまへの掲載	8	53.3%
資金	7	46.7%
区役所HPでの活動紹介	4	26.7%
書類作成・プレゼンテーションの経験	2	13.3%
特に効果はなかった	1	6.7%
その他（後援名義の使用）	1	6.7%

質問3 港北ふるさとサポート事業の経験で、活動にいかせたことがありますか。効果があつた事例について具体的に教えてください。

【連携・出会い】

- ・ 武相中・高など、他団体との連携
- ・ いろいろな団体と交流を持つことで活動の幅が広がった
- ・ 他団体と知り合えたこと、地域活動家の雰囲気に触れられた
- ・ 他団体との連携が評価項目の大事な点だったので、団体間の連携がとてもしやすかった
- ・ 年3回顔を合わせて自然に顔なじみになれたことが良かった
- ・ 障がい福祉関係グループや地区社協、ケアプラザとの協力体制は益々強固になってきた
- ・ 他の活動グループとの交流、連携でネットワークが広がった
- ・ 町内会の協力を得てお祭の町内会のブースに活動のパネルを展示した

【信頼・認知】

- ・ ボランティア活動により地域の方々に喜んでいただけた

- ・ 港北区の認定を受けていたため、ベルリン市シャーロッテンブルグ区長との面会を実現するための在日ドイツ大使館との交渉も成功し、帰国後、大使館に招待された
- ・ 連携が評価され、かながわ子ども子育て支援奨励賞受賞につながった
- ・ 地域からもふるサポの事業としていまだに認知されている
- ・ 地区センターなど公的施設を利用するのに、以前は営利団体ということで敷居が高かったのですが、公的に認めていただいたおかげで利用しやすくなった
- ・ 大勢の方に知っていただく機会となった

【広報】

- ・ 地域の人たちにも活動が知られるようになり、地域情報紙にも取り上げられるようになった
- ・ 活動は日本テレビ、神奈川新聞、市民便り、スポーツ新聞で取り上げられた
- ・ 広報等に載り、区内での知名度が上がった

【事業参加者の増】

- ・ 他の団体がイベントに参加してくれた。こちらも他の団体のイベントに参加した
- ・ 事業参加者が増えることが嬉しい

【会員・ボランティアの増】

- ・ ボランティアを増やすことができた
- ・ 青少年のボランティアが大勢プレイパークに来ることで、その子同士が仲間になり、彼らの居場所になった
- ・ 慶応義塾大学の学生がボランティアとして参加、以後、会員として参加を続けている

【資金】

- ・ 自己資金を増やそうという意識が強くなり、お祭りの出店やかまど使用料、昼食代のカンパなどで財源を得るようになった

【その他】

- ・ 他の団体の活動が参考になった
- ・ NPO 市民活動に対する行政側の支援のあり方について学んだ
- ・ 住民との温度差をあらかじめ経験でき、交流がスムーズになった
- ・ 様々な意見をおっしゃる方たちに、落ち着いて相手を否定せず説明することの練習になった
- ・ 事業を継続できている
- ・ 講演依頼があった
- ・ 設計事務所の PR ができた
- ・ 特になかった

質問 4 今後、区役所が市民活動への支援を行う場合に、あると良いと思うサポートについて、ご意見をお聞かせください。

【場所】

- ・ 会議や活動のための会場の確保
- ・ 印刷等作業スペースの充実
- ・ 事務や会議などで使えるスペースや設備が身近なところ（例えば地区センター）にあり、容易に利用できる環境が整っていると活動が広がる可能性がある

【資金】

- ・ 資金援助
- ・ 少ない金額を細々と支援し続けて欲しい
- ・ 小額でも良いので全額（総事業費の 2/3 とかではなく）の補助金

【交流】

- ・ 交流は、発表よりも座談会やワークショップ形式の方が、負担が少なくなる
- ・ 最近、いくつかのコミュニティリーダーの会に参加し、驚くほど悩みや課題が似通っていて、解決方法も他団体からもらえたり、主催の会に貯まったノウハウなどで解決できることが分かりました。このような目的の集まりがあるといいかもしれません
- ・ 区域にとどまらず、市民活動の実践グループの情報交換の場

【広報】

- ・ 活動している団体取材するなどして、広く知らしめて欲しい
- ・ 地域の方々への PR 方法や講習会会場等のアドバイスが欲しい
- ・ イベントなどのタイムリーな広報が、区の広報誌等で可能ならすばらしい
- ・ グループ紹介の場の設定

【期間】

- ・ 支援期間を長くして欲しい

【その他】

- ・ 市民活動には①フィールドを持って初めて活動が保証されるもの、②テーマを中心に課題解決するために NPO 活動するもの、2つの形式があり、普遍性・広域性からすると②が重要ではないか
- ・ 活動団体を保持するための支援にならぬことを期待
- ・ ケーススタディを含めたレクチャー
- ・ 後援名義

● グループインタビューでの発言から

平成 22 年 1 月に、参加団体の方たちにお集まりいただき、グループインタビューを行いました。

【参加グループ】 日吉台地下壕保存の会、ワークショップ・ピリオド、公園あそびの会
おるたん、ボランティアグループもみじの会、綱島バリケン島プロジェクト、鯛ヶ崎
公園プレイパーク、こどもの本のみせともだち、HappyMotherMusic、港北ふるさと
テレビ局、横浜移動サービス協議会（暮らしいきいきサポートの会）、フューチャーズ・
ランニング・クラブ

1 ふるさとサポート事業を行ったことで、効果があったこと

(1) 事業の新しい展開・チャレンジ

- ・ 新しいガイドブックを作るきっかけとなった
- ・ 新たな場所での活動を開始
- ・ 夢の部分をサポートしてもらった
- ・ 失敗を恐れずに試行錯誤することができた
- ・ ふるサポの補助で、新たな事業を実施したり、既存事業の拡大を行った

(2) 参加者や観客の増

- ・ ガイド養成講座によりガイドの育成ができた
- ・ 事業への参加者が増えた（見学の希望が増えた）
- ・ 観客動員が増えた（60 席クラスのホールから 600 席クラスまで）
- ・ 広報を見て新たな会員が増えた
- ・ 慶應の学生も来てくれた（活動に参加）

(3) 認知

- ・ ふるサポでの実績が、他の助成金で先駆的な活動と認められた

(4) 事業の充実

- ・ 貸本を充実できた
- ・ 1 年目の助成で web での申込フォームをつくった

(5) 能力開発

- ・ 書類やパワポの作成など、補助申請やプレゼンでのノウハウが確立できた
- ・ 発表を模造紙 1 枚にまとめることで、団体の活動の全体像が把握できた
- ・ 財政的にはいろいろ制約があったが、その中で年間計画、予算などの作成で鍛えられた

(6) 広報

- ・ タウンニュースに記事が載った

(7) ネットワーク・交流

- ・ さまざまな団体との交流ができ、ジャンルは違っても悩みは同じで参考になった
- ・ 自分の思い込みでやっていることが、客観的な視点からの意見をもらえ、勉強になった

- ・ 地域に密着して活動していくことが大切なので、地域とのネットワークがつくれるふるサポは意義ある事業
- ・ いろいろなボランティア組織が区内にはあったが、区の支援制度がなく、ふるサポを立ち上げてもらい、ありがたかった。

2 他団体との連携

(1) 他団体との連携ステップアップ

- ・ 他団体の活動に参加した
- ・ 他団体の人材を活用して事業を実施した
- ・ 他団体と連携して事業を共催した
- ・ 他団体と連携することで、その団体のネットワークを生かして、活動できた

(2) 出会い・広がり

- ・ 事業の充実・拡大により、新しい出会いがあった
- ・ 区で認められた団体ということで、公的機関とのつながりや、地区センターとの関係ができた
- ・ 音楽というのはつながりやすい
- ・ コラボを評価軸にしてくれたので声をかけやすかった
- ・ 結果として3年間続けたグループがつながっている
- ・ ふだんの生活では出会わないような世代間の交流ができた
- ・ それぞれテーマを持った団体が、横につながることもできた

(3) 別れ

- ・ ふるサポが終わった以降は、交流が途絶えてしまった

3 今後の支援のあり方

(1) 資金

- ・ 自立と言われているが、実際には厳しい
- ・ 学校を対象とした事業なので、お金を取りづらい
- ・ 小さい団体にとっては、少ない金額でもいいから細々と支援を続けてもらえるのがありがたい
- ・ 小額の支援をたくさんやるようなやり方があっても良い
- ・ 無償のボランティアでは市民活動は続かない
- ・ 助成金を人件費にも使えるようにしてほしい
- ・ 旦那の給料に依存しているのでは駄目

(2) 交流

- ・ 市民団体の活動紹介、イベント検索、区民の架け橋になるような web サイトが欲しい

- ・ 単一ジャンルではなく、総合的な情報や、顔の見える活動が、交流できるようなテーブルをつくって欲しい
- ・ 今までよりも縛りがゆるい感じで、ふるサポのように交流できると良い
- ・ 最終的にはまちづくりカフェのような場所がつけると良い

(3) 期間・継続

- ・ 3年やってちょうど軌道にのったところで卒業になってしまう
- ・ みんなの助成金のように、1回エントリーすると3年間継続して支援してもらえるのはありがたい
- ・ 後援名義のみ、種まきで長期、芽生えで短期という3段階の支援コース

(4) 場所

- ・ 後援名義で施設の優先予約などできるとよい
- ・ 小規模のグループからは、会議室、活動場所、広報についての要望が多い
- ・ 参加者が増え、活動場所を探すのが大変

(5) テーマ

- ・ 区政推進課で所管するならば、現在は、ほかの補助金もいろいろあるので、競合しないようテーマを絞り込んだ方がよい
- ・ 既存の枠に収まらないような新しい事業や草の根の活動を支援して欲しい
- ・ 行政がテーマを設定し、呼びかけることで、家でくすぶっている人たちを引っ張り出す

4 その他

(1) 次世代の育成

- ・ マンパワーが課題
- ・ 組織が大きくなってきたので、リーダーだけでなく、各メンバーが主体的に運営するグループへと変えていきたい
- ・ 各グループのリーダーが忙しすぎて、次世代の育成まで手が回らない
- ・ 次の世代の若い人たちにどのように引き継ぐか。仕事の場とならなければ難しい
- ・ お金だけではない社会参加、自己表現の場、それぞれが成長する場、一人ひとりのメンバーの次につながる場
- ・ サービスの消費者を担い手に変化させる仕掛けが必要

(2) その他

- ・ 「ふるさとサポート」という名前を残して欲しい
- ・ コーディネーターの役割がものすごく大きい。メディアで紹介してくれたり、他の団体とつないでくれたり。
- ・ 似たような活動をする競合団体が多くある中で、必要とされる新たな活動は、専門性というよりは、横断的な取組をしないと、課題が解決しないようなもの

● 慶應義塾大学との連携について

港北ふるさとサポート事業では、毎年「港北学び舎」「港北寄りあい処」の会場「来往舎」の無償提供や、大学関係者の事業委員への就任、大学の講座「ボランティア学」履修の学生とふるさと参加団体との「縁結びタイム」設定や、学生の活動への参加など、様々な面で、慶應義塾大学との協力、連携を行ってきました。また、ヒヨシエイジ協議会は、唯一掟破りの5年間の参加（ただし補助金申請は2年間のみ）で、日吉フェスタなどを中心に、様々な活動団体や地域の方々との連携を深めています。

ふるさと活動団体へのグループインタビューやアンケートでは、慶應の学生が参加してくれたことへの喜びの声が聞かれる一方で、「窓口がどこなのか分かりにくい」「2年、3年になると三田に行ってしまう」という意見も出されました。

慶應義塾大学の学生に、いかに地域の活動に参加してもらうか、ということは、港北区にとって、今後の大きな課題です。そこで、ヒヨシエイジ協議会で活動していた卒業生の方に、当時の活動について、コメントをいただきました。

1 ヒヨシエイジに参加したきっかけは？

地域の人と学生という、世代を越えた交流があれば、学生の視野が広がったり、お互いに刺激しあえると感じ、そういった交流の機会を作っていけたらいいと思ったから。

2 地域の人々と一緒にイベント等を実施してきた中で、印象に残っていることは？

活動を始めたころは、「学生の身勝手な活動」という印象が強かったようで、地域の方の反応は冷ややかなものだったので、こちらからアプローチを続けていくことはとても辛かったです。

しかし、活動への思いを話したり、地域の方の活動に参加していくうちに、私たちの思いを理解してくれ、地域の方々から、「こうしたらいい」とか「こういうイベントがあると楽しい」など、前向きな提案をしてくれたことはとても嬉しかったです。

ヒヨシエイジで経験した「自分から動き出す」ことや、「いろんな世代と話しをする」ということは、社会人になってからも役に立っていると思います。

3 学生が、地域と関わる活動をしていく際の、先輩としてのアドバイス

学生は、自分たちで考えたことを優先しがちで、自分たちの思いを一方向的に伝えていく傾向があると思います。

しかし、本当に誰かと協力していきたいと思うなら、自分たちのことを伝える前に、相手(地域の人々)の活動に参加したりするなどして、相手の活動に興味を持ち、相手を理解しようとするのが大切だと思います。

また、地域に迷惑を掛けている学生(酔っ払いや、ゴミだしのマナーなどで)がいることも事実で、ヒヨシエイジの学生でも、迷惑を掛けている学生と同じものと見られることを理解したうえで、アプローチしていくことも大切だと思います。

4 その他

学生・大学と地域の交流は、地道なものです、成果が見えにくいので、苦しい面もあると思います。また、こういった形の交流は、総論賛成・各論反対の面が強く、なかなか方向性が見えてこなかったり、思うように協力を得られないときもあると思います。

でも、交流の中でも楽しさやこの活動での達成感もありますし、いろんな人の努力で、少しずつ大きくなってきたこの動きが、続いていくことを心から祈っています。

● 港北ふるさとサポート事業の成果

5年間の事業の成果というテーマで、事業委員とアドバイザーの方々に原稿をお願いしました。

古居みつ子会長

この5年間で類似のメニューも増加してきましたが、テーマ型の市民活動を行政が支援する先駆的な取り組みでした。モデル事業ですので、支援する行政も受ける活動団体も進める上での試行錯誤は、それぞれにおありだったのではないかと思います。

5年間継続したことで培ってきたことは大きいように思います。少なくとも次のような成果があったのではないのでしょうか。

1. 本事業が接着剤になり、異なるグループ同士のコラボレーションによる取り組みが、地域で創出できたこと。取り組みを通じて、区民・地域が抱える課題を共有できたこと。
2. 地域組織とも連携した取り組みを前提とする支援で、それを支えるコーディネートもあったため、テーマ型の地域活動の取り組みが身近な地域組織に浸透するきっかけとなったのではないかと。
3. 区内で地域課題等に取り組み・活動する多様なグループの存在を、活動内容を含めて広く区民に周知する機会を提供できた。
4. 活動団体はそれぞれに本事業へのトライをきっかけに、新しい試みにチャレンジされたのではないのでしょうか。進められる中で想定外のことも含めて主体的な力量や活動の広がり、参加者の増加、各団体の課題等を実感されたのではないかと思います。

地域づくりに励んでいる市民として、同じ立場での応援団の一人として審査に参加できましたこと、報告を間近に拝聴できましたことを光栄に思います。

佐谷和江副会長

1. 団体同士のネットワークは貴重、要因を分析して再現性を高めるべき

本事業は、活動団体同士がつながり、共同でイベント等を企画・実施した例が多いのが特徴だと捉えている。団体同士のネットワークは、補助対象でなくなった後も継続しており、本事業の大きな成果だと思う。このようなネットワークは偶発的では生まれなかったのではないかと。その要因を明らかにし、再現性を高めることにより、さらに成果の価値が高まると考える。

2. 団体の力量形成の上で、補助金の金額査定や部分補助の必要性を検証すべき

私は補助金は団体の力量向上が大きな目的だと思っており、そのためには「補助金は申請額の満額を出すこと、できれば全額補助」が望ましいと思っている。本事業はそうではなく、金額査定がほぼ必須となっていた。また、補助金も2/3までとなっていた。これらの制度設計が団体の力量形成にどのようにつながったかを検証することが本事業の成果となると思う。(成果として例えば、全額補助でないことによって、「資金調達への意識が高まり、創意工夫が生まれた」等が考えられる。)

